

0~3歳の遊びシリーズ(4)

遊びの中の大人の役割

遊びは子ども自身のもの、では大人は何をすればいいの？

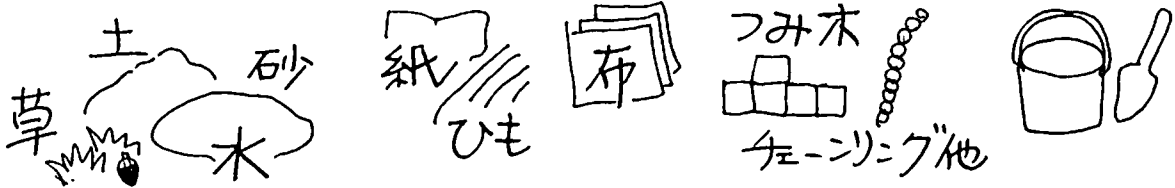
● 体をのびのびと動かせる場所へ連れていく

家の周囲でののびのびと遊ばせたい



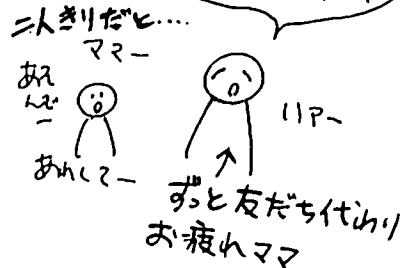
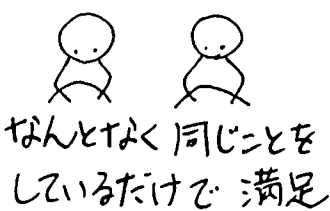
● 遊びの材料や道具を用意する

道具いろいろ



● 一歳でも二歳でも できれば友だちと一緒にの方が楽しい

少子化時代の親はつらい



きちんとした大人は遊びの邪魔者!?

質問魔
これは何?
これは何色?
何しているの?

手出し魔
口出し魔
あーして
こーして

教え込み魔

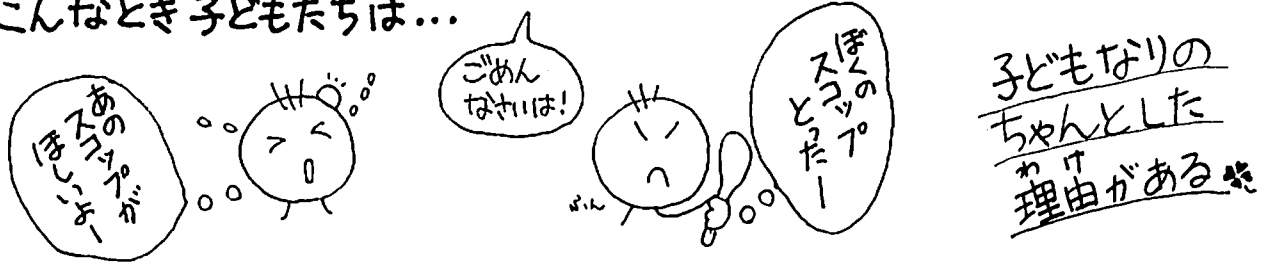
0,1,2,3歳は、食事や睡眠など、生活習慣のしつけをするのが大人の大切な役割。そのため生活の中では、口出し、手出し、制止などを(教える)(手助けする)しないといけないことがいっぱいあります。ですから遊びのなかでは、なるべく子どもが自分で考えたり、やってみたり、試行錯誤が十分に出来るように見守りましょう。

0~3歳の
生活のしつけシリーズ (3)

子どものケガはどうしてる?

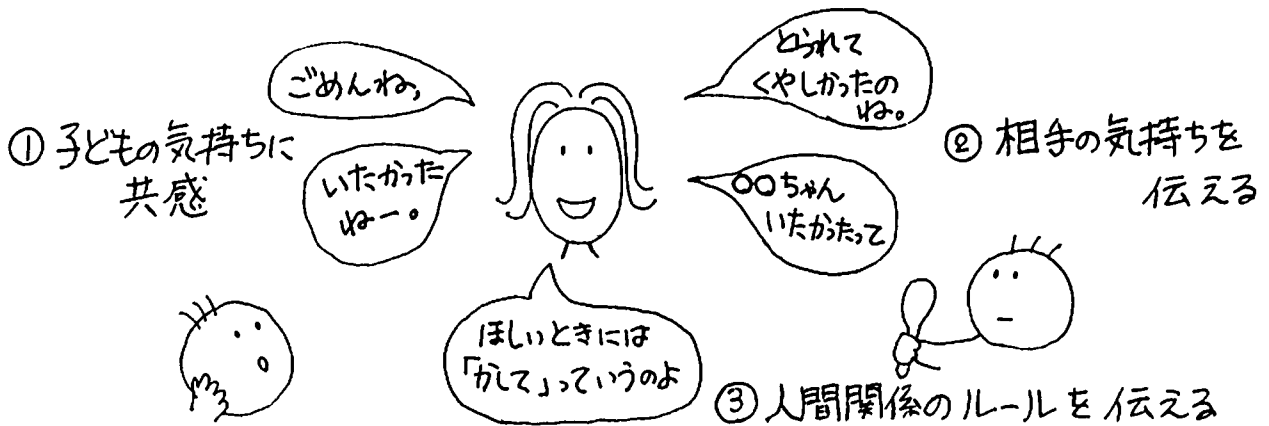
公園で他の子におもちゃを取られてバチン!
「ワーン」と泣き出す相手の子。「たたいちゃ ためでしょ」
「ごめんなさいは」といっても知らん顔。こんな経験ありませんか?

こんなとき子どもたちは...



子どもなりの
ちゃんとした
わけ
理由がある*

子どもたちは、人間関係の初心者。だから大人の控え目な手助けが必要....。



友だちとのぶつかり合いや遊びの中で、子どもたちは人間関係を学びます。
3,4歳以降は(ルールを知っているで)けんかはある程度見守っていきましょう!

ここで一句...

けんかをする
友だちがいて
よかったね

一・二歳
物をがめても
あたりまえ

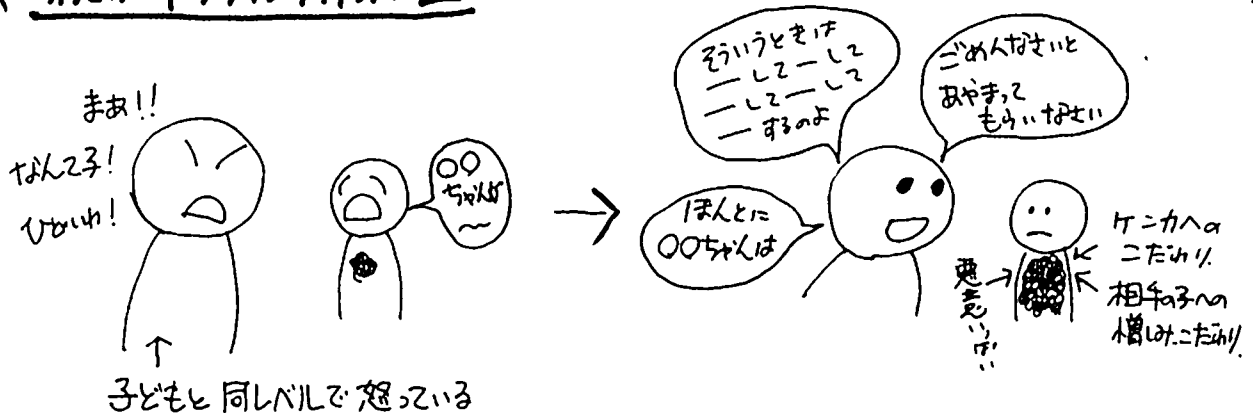
ごめんなさいは
どう教える?

「おはよう」や「きゅうにやう」などの他のことはと同じように「ごめんね」も親が使っていると自然に覚えてしまいます。
特別に教える「ごめんなさい」は、「人にぶつかったときには『ごめんなさい』というのよ」という人ごみでのマナーぐらいでしょうか。

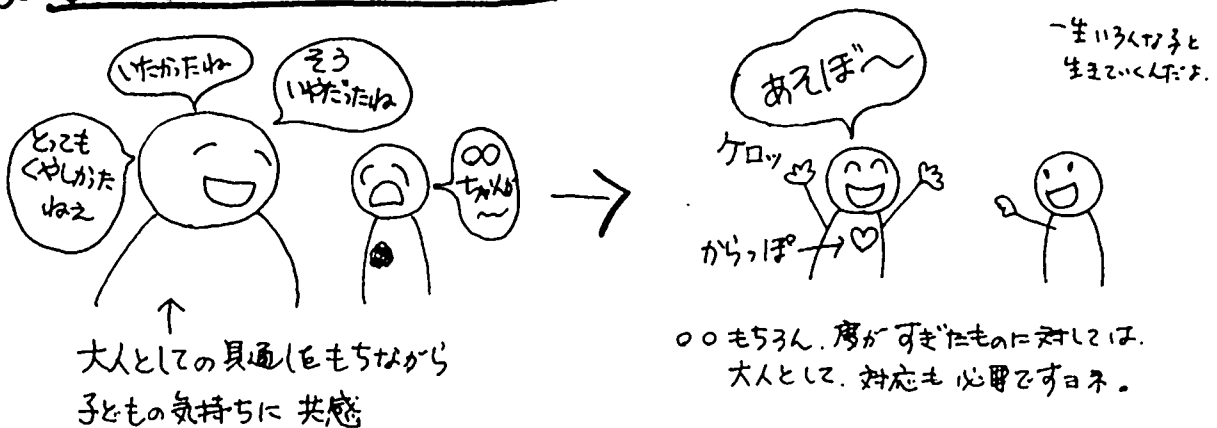
*「かめる」とは 持ち物を ひり占めると言います。

「子どものケンカに親が口出しをするな」と昔から言われて
きました。でもケンカして「〇〇ちゃんが～」と泣いて帰ってきたら、
やっぱり心配になるのが親心。
そんなとき、どうしたらいいんでしょう…。

× 親がトラブル解決型



🌸 子どもがトラブル解決型



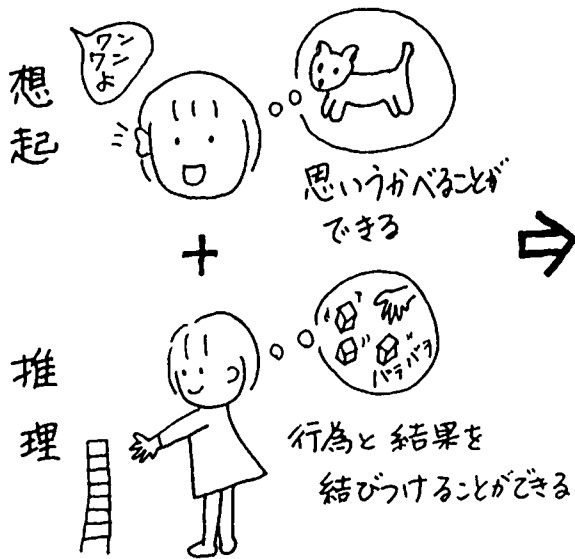
友だちと遊んでケンカして泣いて苦しむことは、
一人前の人間になるために **絶対必要**なこと。
小さいときにその経験をとりあげてしまったら
子どもは一生人間関係で苦しむことになるのがもたしません。



* おおごととは、隣で「大げさなこと」

0~3歳の
子どもの遊びシリーズ

想像力を育てよう(2)



子どもは遊びながら想像力を伸ばします

想像力を伸ばすおもちゃとは..

- ① 色や形が単純なもの
- ② 子どもが扱うことで自由に形が変わるもの

(例) 水・砂・土・泥、粘土、折り紙、キラシ、新聞紙、ヒモ、積み木、布(ふるし、ハンカチ)、ビーズ玉(状)、チェーンリングなど..



() + 想像力 ⇒ おもちゃに
なる!!

想像力を伸ばす大人とは..

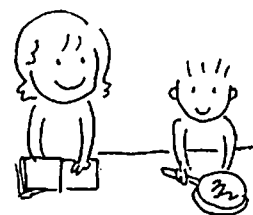
😊 お友だちママ

「さあ、包丁で切りましょ、
「ケーキを並べるわね、
自分も子どもになって
いっしょに遊んじゃう!!



😊 見守りママ

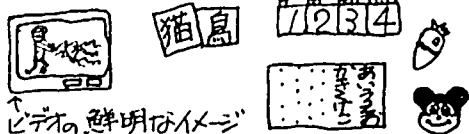
あきた時、
求めてきた時に
ちょこっと
アドバイス。



😊 のんびりママ

子どもの遊ぶ姿が大々好き。
早期教育には興味なし。ひらがなや、
数、漢字などは、子どもが興味をもたしきや。
生活の中で自然に教えようと思っている。

(😊) 操作しにくいイメージを与えたり想像力の発達を阻害する場合もあつたよ (注)



テレビの鮮明なイメージ

想像力を育てよう(1)

1 1歳半～4歳頃は **想像力**がぐんぐん育つ時期

物を何かに“見たてる”
 何かをやっている“つもり”になる
 やたらに“ひとりごと”が多い
 “ごっこ遊び”が大好き



♥ これらは想像力が育っている証拠!!

2 **想像力**はこんな力へとつながっていきます



思考する
 (情報を応用する)

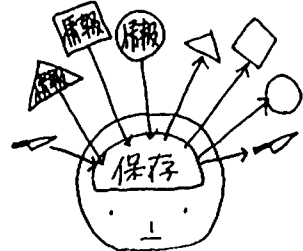
相手の気持ちを
推理する
 (自分の経験を他人に応用する)

自分の意志が
 ある

3 **想像力が未発達なままだと...**

- ・融通がきかない、こだわりが強い
- ・言われたことしかできない
- ・習ったこと、体験したこと以外はわからない
- ・自己中心的、相手の立場で考えることが難しい
- ・自分で遊びや楽しみをつくり出すことができない
- ・感謝や共感の気持ちがわからない

情報入力・そのまま出力
 応用されることがない



では？想像力を伸ばすには？「想像力を育てよう(2)」を参考にしな。

赤ちゃんの遊びシリーズ(4)

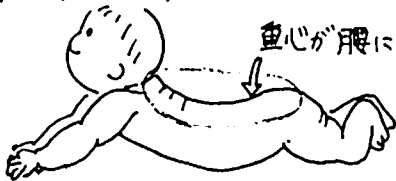
赤ちゃんの成長ってすごい!!

首がすわる



あゝ
首があがった!

背中と腰がすわる



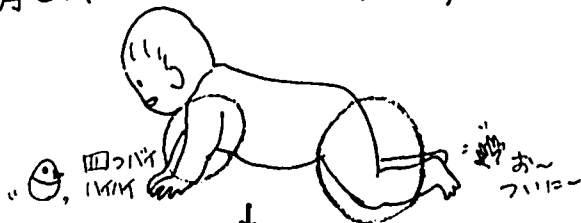
あゝ
おんぼろ

後ずさり~ あれ~

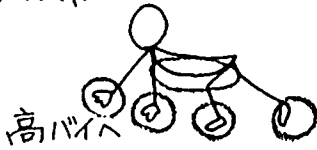
ぐるぐるまわり...

ずりばい前進!! がんばれ

肩と太ももをしっかり動かす

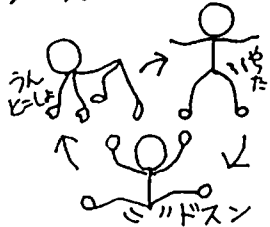


手が開く、足指でける、腹部もしっかり



高バイン

バランスをはかる



床からのおしゃがみ立ち



ハイハイから立ちまで

運動能力の基礎は乳児期に獲得

子どもは、今伸びている「力」を自分で感じとり、その力を伸ばそうと同じ動きを何度も繰り返します。

十分に「力」を獲得できるように一つ一つのステージ(段階)を大切にしましょう。

危険がない限り手出し口出しをさす、遊びをしっかり見守りましょう。

こんなことには注意..

あんの練習

不安定な歩行

抱っこのしすぎ

意欲消失
経験不足

歩行器

つま先歩き
顔からこころ

子どもの遊びシリーズ(1)

手が発達するみちすじ

～1.2ヶ月



握りこんでいる
(親指内側→外へ)

3ヶ月頃～



物を握らせると
少しの間持つ

5ヶ月頃～



自分から手を出して
物をとろうとする
(熊手でかきよせるようにとる)

9ヶ月頃～



物を取り出す
(物を自分の方へと
引きよせる)

10ヶ月頃～



入れる人に渡す
つみ重ねる等
(物を対象に
定位させる)

←この頃は細かいものを
つまむ口に入れるのに注意

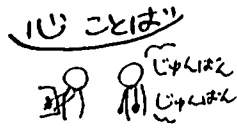
2歳頃



はさみが上手



スキップする



気持ちをコントロールする

手が器用 = 全身運動も = 心もことばも
なめらか なめらか

器用不器用

～手はこうして発達する～

指先の器用さは
全身とつながっている

指先の遊びだけさせていけば
手は器用になるか? いえいえ
それはムリ。子どもの指先は
全身としっかりつながっています。

歩く、走る、登るなどの全身運動が
指先の細かい運動をも育てます。
(中心→末端, 粗大→微細)

うちの子不器用び...

(1)ものをじっと見る力を育てる



テレビ・ビデオを消しましょう
(注意力が低下)



追視を促すおもちゃや
注意が必要な積み木等
遊びましょう。

(2)全身運動をたっぷり



ひこうき



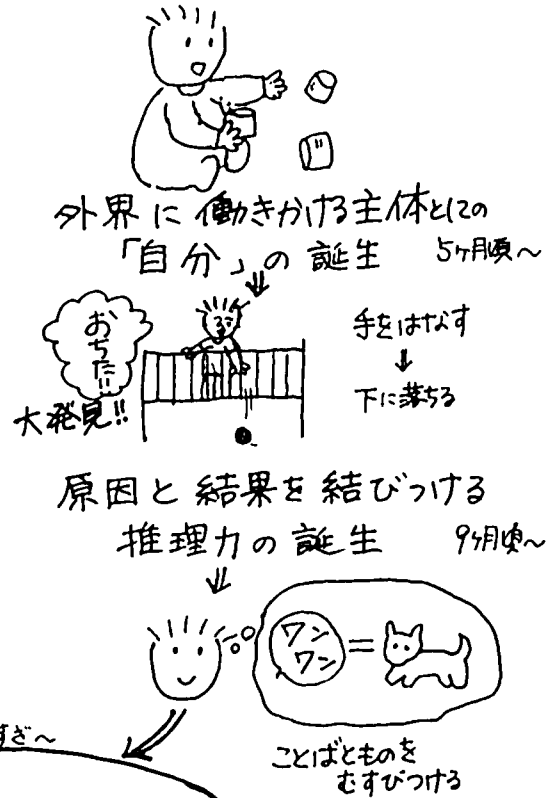
手押車



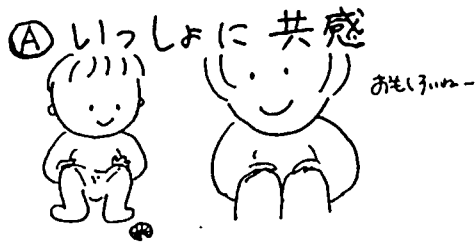
ひざのせ
ゆまふツ遊び

子どもの遊びシリーズ(2)

言葉の誕生



ことばの栄養



② 行為にことばをつける



③ 気持ちにことばをつける

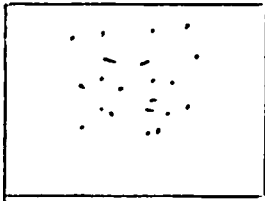


- もしも ことばの遅れが気になったら...
- 1) ビデオ, テレビ, CDを1ヶ月消してみよう。
 - 2) 目を合わせてゆ〜く〜り, は〜り短く話そう。
 - 3) 楽しい擬音をつけてあげよう。(②のおまけ)
「ポットン」「くねくね」「べちゃべちゃ」など
 - 4) ことばの教えこみ, 話しかけすぎは逆効果。

子どもの絵

子どもの絵には 体の成長と
心の発達 があらわれます
この絵の発達のみならず
世界共通だが、おもしろい。

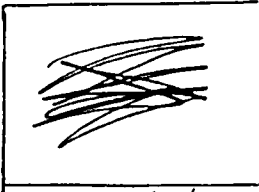
1歳すぎ～



点てん

クレヨンや
マジックを
なめてしまう時期

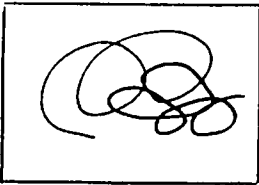
1歳半ごろ～



横への往復

粗大な動きが
肩から腕を動かす
ので、何でも
投げたがります

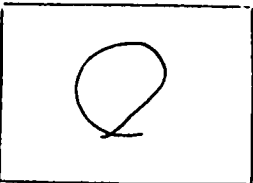
2歳ごろ～



ぐるぐる丸

ひじから動かせるよう
になり、手のコントロール
が、ついてきました。

3歳ごろ～

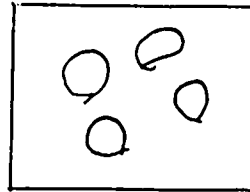


丸が開じる

目と手の協応が
育ちました。

※ 個人差があります。

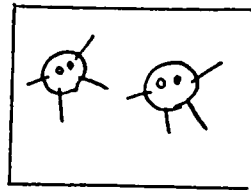
3歳ごろ～



丸が いっぱい

まるは「絵の笑顔」
まるを何かにみたて
描きます

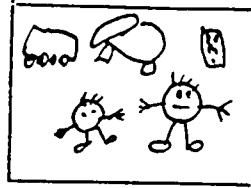
3歳半ごろ～



頭足人

胴体よりも手や足を
意識していることが
現われています

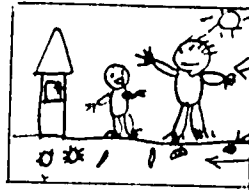
4歳ごろ～



カタログ期

頭の中で お話が
つながっています
ゆくりと 絵の話を
聞いてあげたい時期です

5歳ごろ～



指と意識すると指が出る
基底線
シトケシ表現

子どもの絵の発達をみていると
子どもは 数年という長い年月をかけて
ゆくりゆくり心をつくらせて
感じさせられます。
なんとも ロマンですね～。

© しーちゃん

子育てのなかでは「感情の交流」はとても大切。でも「感情を顔に出してはいけない」と、感情を押さえるくせがついていることもありまよね。今回は「感情を顔に出そう」というお話です。

1

赤ちゃんは、新しいことと出合ったり、困ったことがあると → お母さんの表情を頼りにして → その表情を元に行動します

2

小さな子は、喜びや驚きを感じるとお母さんに共感をもとめます

3

冷静
ふり向いてもいつも知らん顔や、お母さんの表情がわかりにくいと顔を見なくなり自分勝手に動くようになり、不安でお母さんから離れかねることもあります

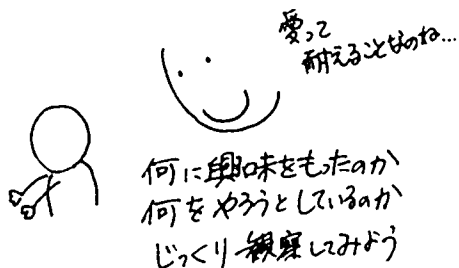
笑顔は「あなたの行動はOKよ！」
「あなたは大事な子よ」
「あなたが大好きよ」というメッセージです。

小さいときにたくさんそのメッセージを受けといた子は自分に自信がもてます。新しい行動への意欲もぐんぐんわいてきます。わが子にも、よその子にも、「笑顔のメッセージ」たくさん贈ってあげようね！

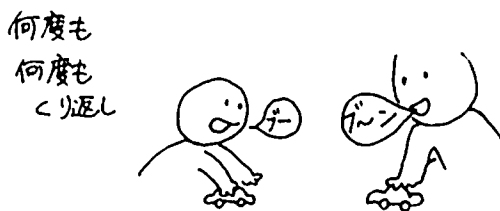
(0~2歳の)遊びの関わり方

赤ちゃんや幼児には、自分で遊びをつくりだす力があります。大人の役割は、その力を引き出すこと。一方的に刺激を与えることや、教えこむことは、子どもの力を奪うことになりかねません。子どもの力を育てる4つのポイントを書いてみます。

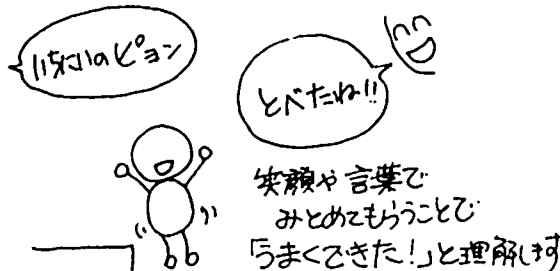
Point 1 静かに見守る



Point 2 子どものことばや動作をまねる



Point 3 子どものことばや動作を言葉にする



Point 4 モデルを示す



ママ
大人と子どものすれちがひ~



3歳や4歳で、色や数がわかったから、それが何になるのでしょうか。

教えこむことで「否定される」経験をつませるよりも、子どもの遊びにじっくりとつきあって、意欲や達成感や、本当の力を育てる大人になりたいですね。

子どもの遊びシリーズ(5)

わが子を
透明に存在にしながら

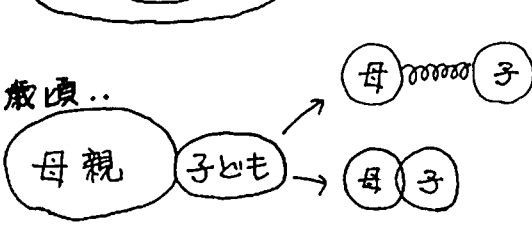
自分づくりは赤ちゃんから始まっている!!

生まれたばかり..



... 自我はまだお母さん (環境) と 一体

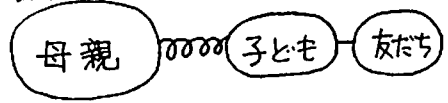
1歳頃..



..ひとり遊びで環境を探索
⇒「自分」と「環境」と区別

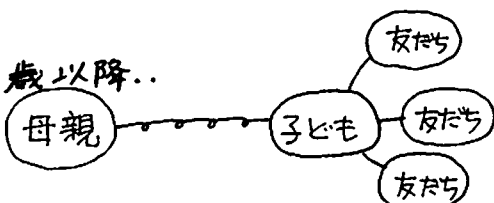
..... お母さんの元にもどって安心

2歳頃..



「イヤ!」「しない!」
... 自分の意志がはっきりしてくる

4歳以降..

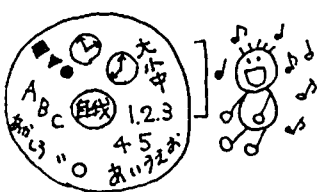


..自分の世界と交流する世界が
ひろがっていく

自我の変化

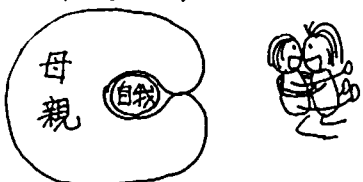
体験不足だとこうなる!

① 自我ビデオバージョン



② 自我過保護バージョン

「自分」と「お母さん」が一体



③ 自我透明バージョン



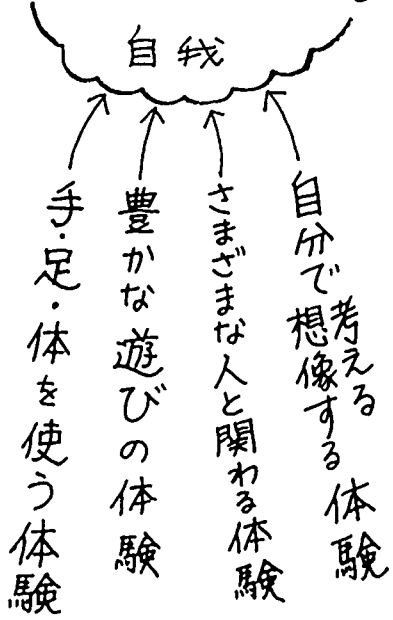
「生きる奥感がない...」
自分と世界の区別がない

④ 自我ゲームバージョン



あれ- 離脱してごー

自分づくりは体験から



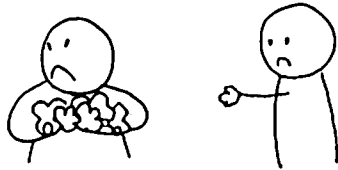
いじわるなんかじゃないよ!

人との関わり方が未熟な幼児は、大人から「乱暴」「いじわる」と誤解されることがあります。いけないことは 教えなくとも いけません。 「性格が悪いのでは?」と心配する必要はありません。大丈夫。どの子もみんな通る道です。
◎しーちゃん

大人が誤解しがちな 幼児の行動

～赤ちゃんは泣くもの。子どもはケンカするもの～

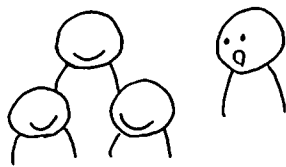
1歳半頃～



自我の芽生え
所有欲の芽生え

ぜったい貸さない!!
全部自分のもの!!
遊んでいるものにさわると
モレツに怒り出す!!

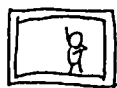
3歳半頃～



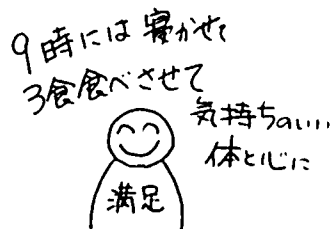
はじめての集団つきあい
カテゴリーの理解.

仲間はずし
「〇〇ちゃんも〇〇だからダメ～」
ありとあらゆる言葉を使って
イジワルを言う

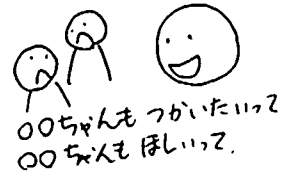
子育てはみんなお互いさま。だけどあまり気にならぬなら...



戦いもの
ビデオや番組はやる



9時には寝かせて
3食食べさせて
気持ちいい
体と心に
満足



〇〇ちゃんもつかいたって
〇〇ちゃんもほいって。
くり返し、大人が
思いやりを伝える

テレビ中毒10のチェックポイント

- 1 テレビを消すといやがる
- 2 ことばが遅い
- 3 視線が合いにくい
- 4 奇声・裏声が多い
- 5 他の子どもに関心が少ない
- 6 人をこわがる
- 7 テレビ以外ではあまり笑わない
- 8 ひとつの遊びをくり返す
- 9 絵本に関心が少ない
- 10 テレビの内容をしゃべり続ける

教育番組や教育ソフトならば子どもにいい？

赤ちゃんや幼児は、人・物・自然と直接ふれあうなかで、身体全体と五感をフルに動かして学習する時期です。その時期に人工の視覚刺激を与え続けることが、発達にどのような影響を及ぼすのか。実は、まだわかっていません。また、赤ちゃんは、強い刺激や新奇な刺激に引きつけられることはわかっていますが、特殊な音刺激・光刺激である教育番組やDVDソフトを視聴させることについては、科学的に、その安全性も有効性も証明されておらず、赤ちゃんや幼児は、自分で遊びをつくり出すかとも、います。ひまな時間を子どもに与えあげよう。

大切なわが子がテレビ中毒になっていませんか？

テレビ・ビデオ・シッターの危険性

乳幼児期は おとなしくて楽!!



受身で楽ませてもらうことが好き!



テレビ大好き

強く新奇な刺激でも平気!

自分で遊べない



小・中学生になると...



ゲーム好き

動くことは苦手

自分で考えることは、苦手。



ネット好き

強い刺激でも平気



青年期以降は...



働くことは苦手

人間は苦手

経験が少なからず、

自分に自信が

持てない。

お読みいただいて ありがとうございます

この「ひだまり通信」は、「ひだまりサロン」といういっしょに子育てをする場のなかで生まれました。

「子どもってどうしてこんなことをするんだろう?」、「こういうときって、どうしてる?」とその時々話題になったことを、通信に書いてきました。

通信を担当した私は、子育て中に保育士の資格を取り、転職した経験を持っています。保育所や地域には、心理学や教育学の本には書かれていない「生きた知恵」がありました。私はひだまり通信に、その「生きた知恵」をのせることができないかと、苦心して書いてきました。

子育ては、学習性のものです。昔から誰もが、誰かに助けられながら、見よう見まねで子育てを行ってきました。しかし、今の地域では、かつては自然に得られた「子育ての知恵」が、得られにくくなっています。

通信を参考に、自分らしい育児を発見してください。そして、1人きりで育児をしている人を見かけたら、あなたの知恵を伝えてあげてほしいと思います。

どうぞ、この冊子が、あなたのお役に立ちますように・・・。



地域ぐるみの子育てをすすめるひだまりの会

高山 静子

「ひだまり通信 1 ～遊びはこころの栄養」

発行 平成20年5月10日

地域ぐるみの子育てをすすめる

ひだまりの会

執筆・編集 高山 静子

http://www.geocities.jp/hidamarino_kai/

内容についての問い合わせは以下へ

pf6s-tkym@asahi-net.or.jp (高山)

*配布資料に引用される場合は、冊子の
引用であることを明記下さい。

内容を一部改変しての転載はご遠慮下さい。